日本海新聞 2016 年 1 月 12 日 (火)

100年前のサンフランシスコ万博出品

日光東照宮の境内模型 鳥取市移設へ動く

江戸幕府を開いた徳川家康を祭る日光東照宮（栃木県日光市）に所蔵されている20分の１スケールの「境内模型」を、鳥取東照宮のある鳥取市へ移設する計画が浮上している。既に日光東照宮側は了承しており、移設を働き掛けた鳥取県内の市民有志も「地方創生につながる」と受け皿となる推進団体を立ち上げた。移設を実現して東西の東照宮の絆を強めようと機運を盛り上げる。

（本社・中村宏）

日光東照宮を20分の1スケールで再現した境内模型。1915年のサンフランシスコ万博に出品するため内務省が制作した（日光東照宮提供）

鳥取東照宮、麒麟のゆかり

境内模型は１９１５（大正４）年に米国で開かれたサンフランシスコ万博に出品するため当時の内務省が制作。大きさは幅４・８㍍、奥行き９・６㍍、最も高い建造物の五重塔は高さ１・８㍍。日光東照宮の境内を再現した30畳ほどのスペースに、国宝の陽明門をはじめ本殿や唐門など60点以上の建造物が本物さながらに配置されている。

東大や羽田候補

万博の後、東京大を経て日光東照宮の宝物館で展示していた。しかし、昨年行われた「４００年式年大祭」の記念事業の一環として同宮は新しい宝物館を建設。同模型に替わる新たな映像展示を導入したため、移設の検討を始めた。

東大や羽田空港などが候補として上がる中、鳥取県内の市民有志が昨年１月、日光東照宮の稲葉久雄宮司に面会。同宮の装飾に使われている伝説上の聖獣「麒麟（きりん）」が県内では獅子舞として根付いていること、家康のひ孫で初代鳥取藩主の池田光仲が鳥取東照宮を造営し、麒麟獅子舞を広めたことなどを説明した。

鳥取と日光に深いゆかりがあることを知った稲葉宮司は「境内模型は鳥取の地方創生に活用することが最も有効」と判断した。

大きなギフト

これを受けて市民有志は同８月、推進団体として「鳥取・日光４００年プロジェクト」（植木誠代表理事）を設立。「とっとり麒麟ルネサンス」と銘打ち、境内模型の移設を柱に鳥取と日光の共通のシンボル「麒麟」を生かした地域振興を提唱しており、賛同者を募るほか、鳥取県と鳥取市にも協力を呼び掛けている。

植木代表理事は「境内模型は鳥取への大きな〝ギフト〟。このタイミングを逃さずに麒麟をテーマとした地方創生を興し、麒麟獅子舞などに代表される〝ふるさとの誇り〟を守り続けたい」と強調。鳥取東照宮の長尾隆久宮司も「日光と深い結び付きがある鳥取の歴史、文化を後世に伝えるため、なんとしても移設を実現したい」と力を込める。

同団体は、境内模型と共に所蔵されている洋画家、和田英作（１８７４～１９５９）の大作「千人武者行列絵図」（縦２㍍、横22㍍）の貸与も働き掛け。鳥取東照宮の参道沿いにある市歴史博物館（同市上町）への設置を要望している。

市民有志が推進団体